

2026 年 8 月 23 日（聖霊降臨後第 13 主日、A 年特定 16）

メッセージ

「人間ではなく、天の父によって」

（マタイによる福音書16:13-20）

司祭ヨセフ太田信三

当時の人々は、主イエスを昔の預言者の名で言い表そうとしました。人は自分の「知っている」枠の中でしか物事を理解できないからです。ではなぜペトロは、その枠を超えて信仰告白できたのでしょうか。主イエスご自身が「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、天におられる私の父である」と言われている通り、神がペトロの目を開いてくださったからです。だからこそペトロは、生ける神の子と真に出会うことができました。そのペトロに、主イエスは天の国の鍵を授けます。それは、目を開かれた者として、地上と天とを繋ぐ役目を委ねられた、ということです。同じ世界に生きながらも、神を見る目が開かれるとき、そこに神の国が開かれる。その鍵をペトロは授かり、それが教会の役割として受け継がれていくのです。

ペトロとは岩という意味です。主イエスはその岩の上に教会を建て、陰府の門もこれに打ち勝つことはない、と言われました。ペトロの目を開いたのは天の父であり、その上に建つ教会には、神が常に伴われるからです。教会とは、この世に生きながら神によって目を開かれ、神と共に生きる人々の集まりです。しかもそれは、私たちの努力で獲得するものではなく、神から恵みとして与えられるものなのです。

「バルヨナ・シモン、あなたは幸いだ」という祝福は、私たちにも向けられています。あなたには神の一方的な恵みが注がれている、あなたは幸いだ、と。主イエスは私たちを教会に招き、その命を祝福し、この世界へと派遣されます。私たち一人ひとりを通して働く神によって、人々の目が開かれ、天の国へと繋がれるためです。

今日、立派な信仰告白をしたペトロは、来週の福音では主イエスの受難予告を聞いていさめ、「サタン、引き下がれ。神のことを思わず、人間のことを思っている」と叱られます。祝福を受け、鍵を預けられたペトロですら、人間の思いに囚われてしまうのです。今日の福音の最後で、主イエスをご自分がメシアであることを口止めされたのも、力強い解放者というユダヤ人のメシア像で誤解されることを避けるためでした。真のメシアは、十字架上で死に、復活される神の子です。人間の思いの「枠」に留まる限り、それは分からないのです。だからこそ、「現したのは、人間ではなく、天の父である」との御言葉を、忘れずにいたいと思います。